

## 3. 乳房MRIの現状と展望

## 1) 乳房MRI：MRIガイド下生検も含めて

町田 洋一 / 戸崎 光宏 亀田京橋クリニック画像センター

本稿では、2014年2月に American College of Radiology (ACR) より発行された改訂版 BI-RADS (Breast Imaging Reporting and Data System) 2013<sup>1)</sup> の改訂点や重要と思われる事柄を、最近の文献報告を交えて紹介する。また、近年、乳房MRIはスクリーニングツールとして認識されつつあり、その背景を紹介し、併せて今後の課題を考えたい。

なお、BI-RADS 2013については、本誌2014年7月号より一般社団法人 乳腺画像・研究診断支援グループによる企画として連載が始まっており、詳細は連載にて知識を深めていただきたい。

## Tips in New BI-RADS MRI

## 1. BI-RADS カテゴリー 3

今般改訂されたBI-RADS MRIでは、BI-RADS カテゴリー 3の意義について多くの誌面を割いて解説している。悪性である確率が2%以下と判断された場合に、BI-RADS カテゴリー 3と判定されることは広く知られていることである(図1)。

ただし、MRIだけでなくBI-RADS マンモグラフィやBI-RADS 超音波検査においても強調されていることだが、このカテゴリーは“indeterminate category”ではないことに注意したい。つまり、ある1つの所見がMRIで確認され、それが良性か悪性かわからないと判断した場合、それはBI-RADS カテゴリー 3ではないということである。言い換えれば、経過観察により増大することがないと予測され

るが、良性と判断するまでにしばらくの(2, 3年)経過観察期間を設ける必要があると思われる場合が、BI-RADS カテゴリー 3に該当する。

それでは、先述の「良性か悪性かわからないと判断」された病変は、どう判定されるべきであろうか。この「良性か悪性かわからない」という状況が、どれほどの悪性の確率を示すかは議論の余地があるが、BI-RADSでは、この場合カテゴリー 4(悪性の確率2~95%)と判定され、生検で組織学的診断を行うことが推奨されている。言い換えれば、良性か悪性かわからない状態で、その病変を経過観察することは原則的に推奨されない、ということ認識する必要がある。このことは、被検者、つまり乳房MRI検査を受けることになった患者さんの立場からするとわかりやすい。すなわち、患者さんは「乳がんかどうかかわからないから半年間様子を見ましょう」と言われた場合、乳がんかもしれない病気を乳が

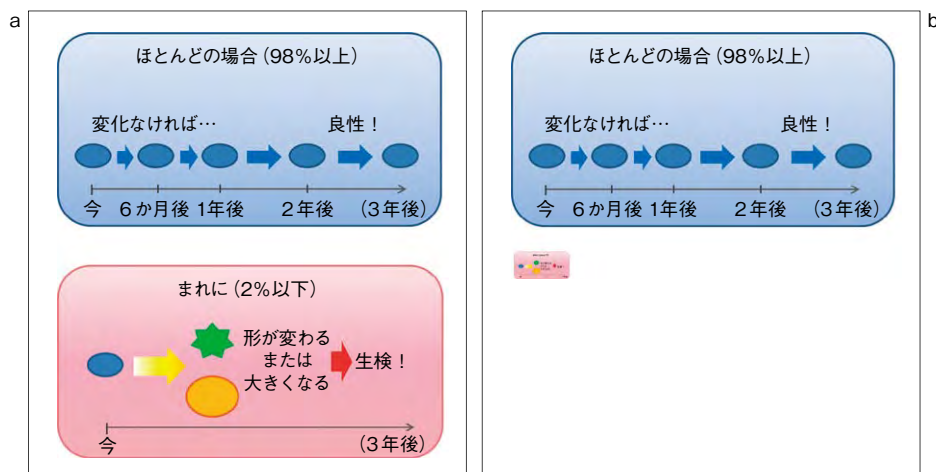


図1 BI-RADS カテゴリー 3における悪性である可能性の重みづけ  
BI-RADS カテゴリー 3と判定された場合、aのように2つの可能性をとることが想定される。しかし実際は、原則(98%以上)良性であることを想定しているため、その可能性を重みづけして図示すると、bのように「まれに」の可能性が小さくなることに注意したい。